

渋沢健著「巨人・渋沢栄一の『富を築く100の教え』」講談社2007年4月18日刊を読む

1. 心を常に楽しもう - Let your soul enjoy, always -

(1) たとえその事業が微々たるものであろうと自分の利益は小額であるとしても国家必要の事業を合理的に経営すれば心は常に楽しんで事に任じられる。

(2) 現代の言葉で言うと……たとえ、自分の仕事がいしたものでなくても、たとえ、自分の儲けが小額であっても、それが社会にとって必要な仕事だと信じて臨めば、心から楽しんでできるはずだ。

(3) 「まず楽しむ気持ち」から成功が生まれる - 渋沢健が読み解く●渋沢栄一のメッセージ

なぜ“心を楽しむ”ことが大切なのでしょうか？

大成功している人を見てください。ちょっと成功して満足しているような人じゃないですよ。本当に、本当に大成功しているような人たちです。

いろいろな性格、いろいろなタイプの成功者がいますが、彼らには、ひとつだけ共通していることがあります。

それは、人生をメチャクチャ楽しんでいる、ということ。

大成功しているから、人生が楽しいのは当たり前？いやいや、それは逆です。絶対に。

彼らは、まず人生を楽しんでいる。だからこそ、いろいろなことに好奇心を持って、挑戦しよう、と思えるのです。

楽しく生きるために行動する。成功は、その結果として得られるものなのです。

2. 優れたものの魂を真似よ - Don't copy the form, but copy the soul -

(1) 真似^{まね}はその形を真似ずして、その心を真似よ。

(2) 現代の言葉で言うと……何かを真似したいと思うのであれば、その形だけを真似するのではなく、その心をも真似ることだ。

(3) ブランドの志を身につけよう - 渋沢健が読み解く●渋沢栄一のメッセージ

日本人は、何でも形から入るのが好きそうですね。たとえば、海外から持ち込むブランド品。

誰もがひとつは持っているでしょうが、それを身につけるときの、はたして本当に、そのブランドの“志”を理解しているのでしょうか？

それとも、そのブランドを身につけていないと、仲間外れにされるのが怖くて、わけもわからず買いあさっているのでしょうか？

本当の意味での“素晴らしい人間”というものは、身につけたものだけでは判断できません。

その外装の中にあるもの——。これこそが大事なのです。

上辺だけブランド品で飾っているのでは、ショーウインドウのマネキンと変わりはありません。それより、あなたが素晴らしいと思うそのブランドの、理念や志を身につけるほうが、はるかにスマートです。

3 .短所を直すより、長所を伸ばそう - Exert your strong points, and the weak points shall perish

(1)長所はこれを発揮するに努力すれば、短所は自然に消滅する。

(2)現代の言葉で言うと……自分の長所を見つけて、それを伸ばすように努めれば、短所はいつの間にか、消えてしまう。

(3)「短所を直す教育」は間違っている - 渋沢健が読み解く● 渋沢栄一のメッセージ

人と相対するとき、相手の長所に目が向いていれば、短所はそれほど気にはならないものです。ただ、現在の教育やしつけの方向性は、短所を指摘して正すことが基本方針のようです。「定められた枠にはまりなさい。そうしなければ、それはオマエが悪い、恥だ」簡単に言えば、これが今の日本の教育です。

確かに、指導者の視点から見れば、この方針のほうが楽でしょう。誰でも同じ型にはめればいいのですから。逆に、長所を見つけて伸ばすことは難しい。一人一人の個性を見極めて、的確に個別の指導をしなければいけないのですから。

しかし、もし長所を見つけて、伸ばしてもらえたなら、その子ども、学生、部下にとっては、必ずそれが一生の宝物になるのです。

4 . 老人たちこそ学問をせよ - Old folk these days -

(1)しかして文明の老人たるには、身体はたとえ衰弱するとしても、精神が衰弱せぬようにしたい、精神を衰弱せぬようにするは学問によるほかはない。

(2)現代の言葉で言うと……現代の文明社会で生きていくには、たとえ年老いて身体は衰えていても、精神は弱らぬよう、強い気持ちを持っていたい。それには、学問をする以外にない。

(3)いくつになっても働き、社会に貢献しよう - 渋沢健が読み解く● 渋沢栄一のメッセージ

「次代を担う青年は、もっとしっかりせよ！」と、よく言われます。確かに、その通りでしょう。ただ、よりよい世の中を築くためには、青年だけではなく、老人もまた、大切な存在なのです。

馬車から自動車、自動車から飛行機の時代となって、世界が狭くなったように、科学や技術の発展により、人間の寿命は延び、ますます人生は長くなっています。

そんな中で、30歳までが勉強の時期であるならば、少なくとも70歳ぐらいまでは働かないと、

もったいないではありませんか？もし、50 や 55 で老いて衰えてしまえば、20 年、25 年しか働いていないことになります。それだけの期間で、何を成し遂げられるでしょう。そして、何かを成すには、学び続けるしかないのです。

老いてますます学問をし、さらに働く。ぜひ、そんな生き方をしたいものです。文明社会には、青年には青年の、老人には老人の、貢献すべき余地があるのですから。

[コメント]

渋沢家 5 代目子孫で経済同友会での友人の渋沢健氏による、日本資本主義の父と言われる渋沢栄一論。混迷の現代をどのように生き抜くかを考える上で、非常に有益な書。渋沢翁の生き方と 100 の教えを重ねながら読むと、更にその意が浮かび上がる。

- 2010 年 7 月 14 日林 明夫記 -